

2023年2月期 第1四半期 (2022年3月1日～2022年5月31日)

決算説明資料



©2022「GHOSTBOOK おばけずかん」製作委員会

2022年7月12日(火)



2023年2月期 第1四半期 営業概況

	2022年2月期 (2021年3月～5月)	2023年2月期 (2022年3月～5月)	前期比	増減率
営 業 収 入	57,808百万円	61,865百万円	4,056百万円	7.0% 
営 業 利 益	10,518百万円	14,273百万円	3,754百万円	35.7% 
経 常 利 益	10,847百万円	15,829百万円	4,982百万円	45.9% 
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,684百万円	11,516百万円	4,831百万円	72.3% 

※当期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用。対前年同期比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較しています。
 なお、収益認識会計基準適用の影響額は、営業収入は2,023百万円減少、営業原価は1,191百万円減少、販売費及び一般管理費は915百万円減少し、営業利益は83百万円増加、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ82百万円増加しております。

2023年2月期 第1四半期 営業概況

【「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」について】

本年4月に創立100周年に向けた「長期ビジョン 2032」と今後3カ年の具体的な施策である「中期経営計画 2025」とから構成される「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」を策定し、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて取り組んでおります。詳細は[こちら](#)をご覧ください。

【新型コロナウイルス感染症の影響について】

新型コロナウイルス感染症に伴う当社グループの主力事業への影響は、オミクロン株の感染再拡大に伴い、当第1四半期においても継続しております。

映画興行事業においては、3月21日まではまん延防止等重点措置該当地区のサイトにおいてコンセプションの営業時間短縮、アルコール類の時短販売等の感染防止対策を施しながら営業活動を続けました。

演劇事業においては、一部演目において、公演関係者の感染により公演中止が発生し、業績に影響を与えました。

【第1四半期決算の概況】

映画営業事業において、『劇場版 呪術廻戦 0』の続映に加え、『名探偵コナン ハロウィンの花嫁』をはじめとする定番のシリーズアニメ作品や、『シン・ウルトラマン』、『SING／シング：ネクストステージ』等のヒットがあり、収益認識会計基準の適用により減収となったものの、大幅な増益。

映画興行事業において、東京・関西圏の映画館の臨時休業があった前年同期に比べ事業環境が改善したことに加え、上記の東宝配給作品を中心としたヒットに恵まれたため、大幅な増収増益。

映像事業において、「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」「SPY×FAMILY」等のTOHO animation作品が、パッケージ販売、商品化ライセンス、動画配信等の多面的展開により好調に推移したものの、『ウマ娘 プリティーダービー Season 2』のパッケージが大きなセールスを記録した前年同期と比べ、減収減益。

映画事業全体では、上記の要因により前年同期と比べ、増収増益。

演劇事業では、『ミス・サイゴン』等が盛況に推移したものの、公演の一部中止をした演目が複数あり、増収となるもわずかに減益。

不動産事業では、不動産賃貸事業において保有物件が堅調に稼働したことに加え、道路事業が好調な成績を収めたことにより、全体では増収増益。

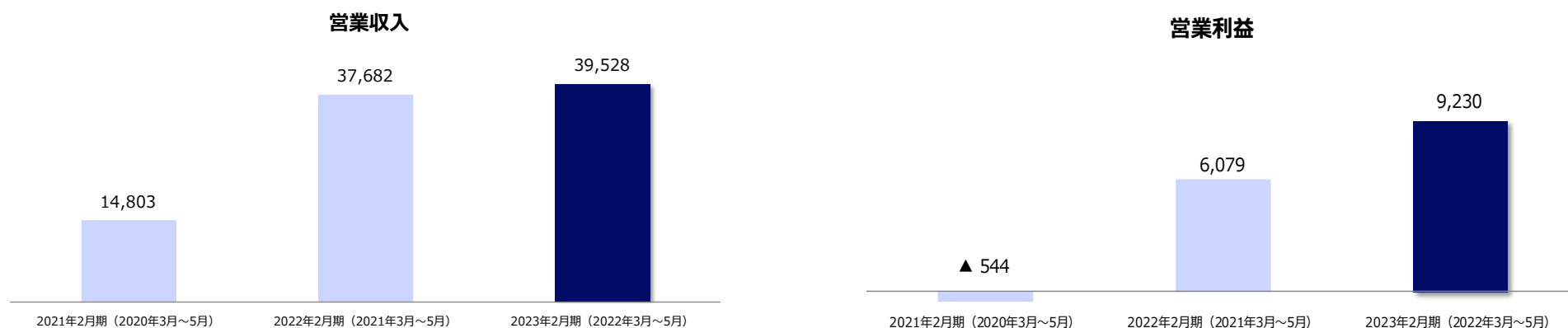
※新型コロナウイルス感染症の影響に伴う大規模施設に対する協力金等を「助成金収入」として特別利益に計上しております。

セグメント別業績一覧

営 業 収 入				営 業 利 益		
	2022年2月期 (2021年3月～5月)	2023年2月期 (2022年3月～5月)	増減率	2022年2月期 (2021年3月～5月)	2023年2月期 (2022年3月～5月)	増減率
①映 画 事 業	37,682	39,528	4.9% ↗	6,079	9,230	51.8% ↗
映画営業	12,321	11,727	-4.8% ↘	2,702	4,800	77.6% ↗
映画興行	12,879	17,339	34.6% ↗	295	2,089	607.8% ↗
映像事業	12,481	10,461	-16.2% ↘	3,082	2,340	-24.1% ↘
②演 劇 事 業	2,884	4,561	58.1% ↗	483	737	52.4% ↗
③不動産事業	16,604	17,477	5.3% ↗	4,922	5,193	5.5% ↗
不動産賃貸	6,725	6,939	3.2% ↗	3,136	3,027	-3.5% ↘
道路事業	7,471	8,048	7.7% ↗	1,570	1,942	23.7% ↗
不動産保守・管理	2,407	2,489	3.4% ↗	215	223	3.5% ↗
④その他事業	636	297	-53.3% ↘	▲ 39	57	—

※当期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用。対前年同期比較は、収益認識適用前の前期数値を用いて比較。（単位：百万円）
 なお、収益認識会計基準適用の影響額は「映画事業」の営業収入は2,137百万円減少、営業利益は77百万円減少し、「不動産事業」の営業収入は343百万円増加、営業利益は166百万円増加しております。

セグメント別業績【映画事業】



※当期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用。対前年同期比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較。

（単位：百万円）

業績分析（増減要因）

- 映画営業事業では、興行収入137億円を超えた『劇場版 呪術廻戦 0』の続映をはじめ、『名探偵コナン ハロウィンの花嫁』（同90.5億円）、『シン・ウルトラマン』（同40.8億円）、『SING／シング：ネクストステージ』（同33億円）等のヒットがあり、収益認識会計基準の適用により減収となったものの、大幅な増益。東和ピクチャーズ配給『トップガン マーヴェリック』（5月27日公開）も好調なスタート。
（興行収入は2022年6月末時点）
- 映画興行事業では、前年の緊急事態宣言の発出を受けた、東京・関西圏の映画館の臨時休業があった前年同期に比べ事業環境が改善したことに加え、上記の東宝配給作品を中心としたヒットに恵まれたため、大幅な増収増益。
- 4月25日に福岡市博多区に「TOHOシネマズ ららぽーと福岡」（9スクリーン）をオープン。2026年夏頃、名古屋・栄エリアに中京圏の旗艦店となるTOHOシネマズ出店を発表。
- 映像事業では、アニメ製作事業において、「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」「SPY×FAMILY」等、TOHO animation作品の商品化権、動画配信等の各種配分金収入が好調に推移。パッケージ事業では、『マスカレード・ナイト』『劇場版「きのう何食べた？」』等を提供。出版・商品事業では、劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて『シン・ウルトラマン』『名探偵コナン ハロウィンの花嫁』の販売が好調。映像事業全体として、『ウマ娘 プリティーダービー Season 2』のパッケージが大きなセールスを記録した前年同期と比べ、減収減益。

当第1四半期の主要稼働作品状況

東宝(株)配給作品（10億以上）

作品名	公開日	興行収入
名探偵コナン ハロウィンの花嫁	4月15日	90.5
シン・ウルトラマン	5月13日	40.8
映画ドラえもん のび太の宇宙小戦争 2021	3月4日	26.5
映画クレヨンしんちゃん もののけニンジャ珍風伝	4月22日	19.9
映画『おそ松さん』	3月25日	15.9
(ご参考)		
劇場版 呪術廻戦 0	12月24日	137.5

東宝東和(株)等配給作品（10億以上）

作品名	公開日	興行収入
トップガン マーヴェリック	5月27日	71.3
S I N G / シング : ネクストステージ	3月18日	33.0

(興行収入は2022年6月末日時点 単位：億円)

当第1四半期の映画営業事業・映画興行事業の推移

映画営業事業 興行収入推移

	2023年2月期	2022年2月期	前期比
3月	4,404,406,530	10,122,378,904	43.5%
4月	7,382,498,300	8,940,877,900	82.6%
5月	8,719,197,550	3,087,028,450	282.4%
1Q	20,506,102,380	22,150,285,254	92.6%

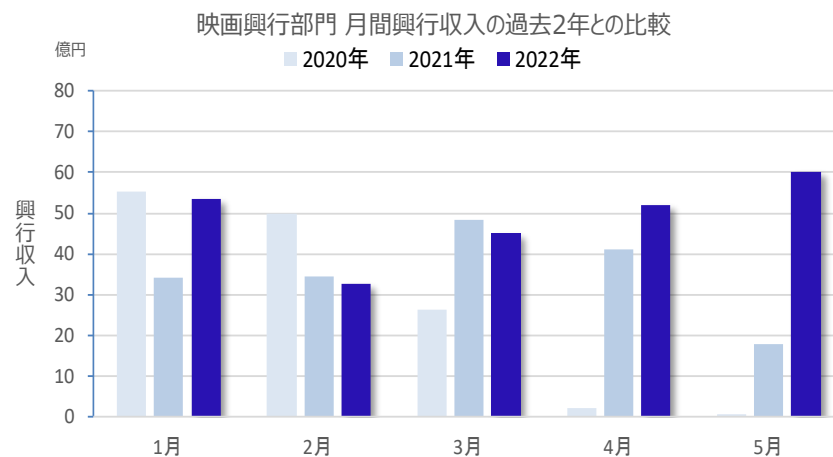
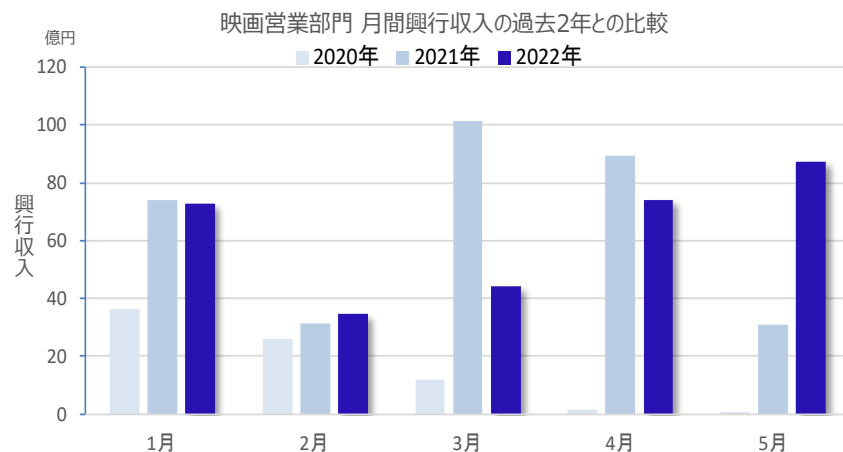
※東宝映画営業部が配給した作品の興行収入

映画興行事業 興行収入推移

	2023年2月期	2022年2月期	前期比
3月	4,494,828,738	4,842,139,643	92.8%
4月	5,203,206,024	4,099,777,614	126.9%
5月	6,004,059,601	1,775,416,231	338.2%
1Q	15,702,094,363	10,717,333,488	146.5%

※全国のTOHOシネマズ等で上映されたすべての作品の興行収入（東宝配給作品を含む）

（単位：円）



『劇場版 呪術廻戦 0』／TVアニメ「呪術廻戦」



© 2021「劇場版 呪術廻戦 0」製作委員会 ©芥見下々／集英社

原作者・芥見下々による短期集中連載にて描き下ろされた「呪術廻戦 0 東京都立呪術高等専門学校」そして、2018年3月より週刊少年ジャンプ（集英社刊）にて連載中の『呪術廻戦』はシリーズ累計発行部数6,500万部を突破（デジタル版を含む）

（劇場版）

2021年12月24日より公開し、2022年5月29日までのロングラン大ヒットとなり、興行収入137.5億円を記録。国内興行の勢いを引き継ぐ形で、海外興行収入も114.5億円を突破し、北米における日本映画史上歴代4位の興行収入を記録。全世界累計動員数2,000万人を達成（7月7日時点）

（TVアニメシリーズ）

2022年4月3日からTVアニメ第1期を再び放送中
2023年にはTVアニメ第2期の放送を予定

（パッケージ）

『劇場版 呪術廻戦 0』Blu-ray & DVD 9月21日発売予定

TVアニメ「SPY×FAMILY」



©遠藤達哉／集英社・SPY×FAMILY製作委員会

10月よりテレビ東京他にて第2クール放送開始
各種動画サービスにて第1クール配信中

「SPY×FAMILY」は集英社の運営する漫画アプリ「少年ジャンプ+」内で2019年から連載がスタートし現在までで3億PV閲覧されている超人気Webマンガ。既刊9巻にして累計発行部数は2,100万部を超え、数あるWebマンガ作品の中でもトップクラスの人気を博している

（TVアニメシリーズ）

テレビ東京での録画を含む総合視聴率（世帯）は平均9.5%（タイムシフト視聴はテレビ東京アニメ番組史上1位 22年7月8日現在）※関東地区、ビデオサーチ調べ。動画配信ランキングでも7週連続で1位を記録する（GEM Partners 6/15調べ）など、回を重ねるごとに勢いを増し老若男女問わず幅広い層に広がっている

（パッケージ）

「SPY×FAMILY」Vol.1 初回生産限定版 Blu-rayは7月20日発売予定

TVアニメ「僕のヒーローアカデミア」



©堀越耕平／集英社・僕のヒーローアカデミア製作委員会

TVアニメ第6期が2022年秋放送開始！

原作はコミックスシリーズの世界累計発行部数6500万部を誇る、週刊少年ジャンプ(集英社刊)で連載中の堀越耕平による大人気漫画

（TVアニメシリーズ）

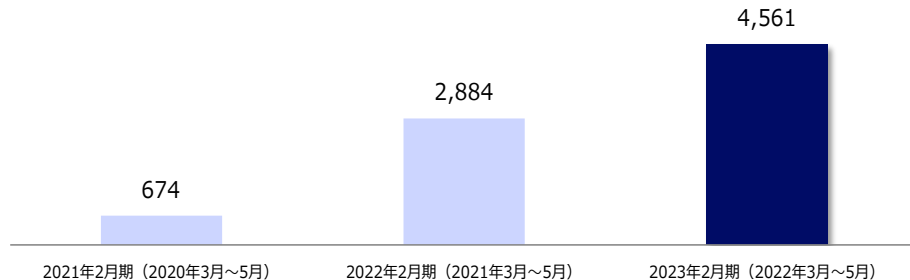
2016年4月の第1期を皮切りにこれまでに第5期まで放送
今秋第6期が放送開始

（新作オリジナルアニメーション）

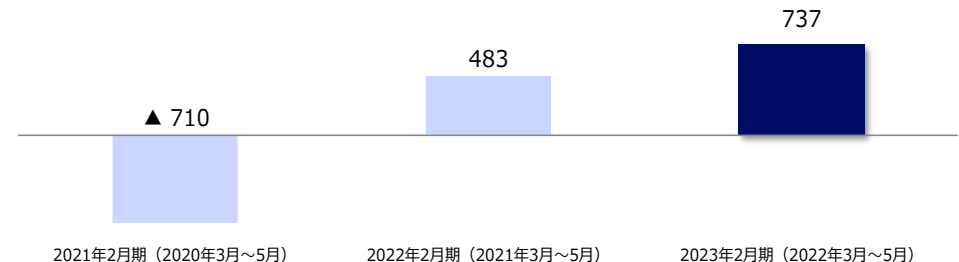
海外アニメコンベンション(Anime Expo、Japan Expoのメインステージ)での上映が決定
8月1日より各配信プラットフォームにて日本・海外同時配信開始予定

セグメント別業績【演劇事業】

営業収入



営業利益



※当期期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用。対前年同期比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較。

(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

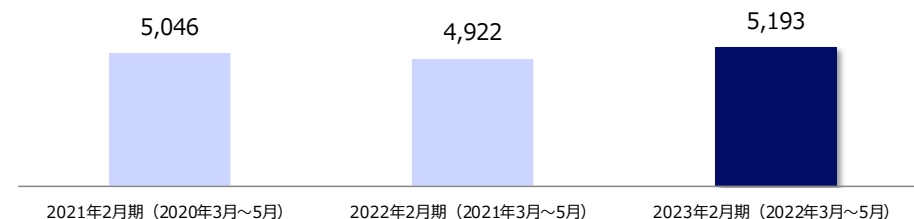
- 帝国劇場では、東宝創立90周年記念作品『千と千尋の神隠し』(3月公演)、『Endless SHOCK -Eternal-』(4～5月公演)が盛況。シアタークリエでは、『ピアフ』(2～3月公演)、『ネクスト・トゥ・ノーマル』(3～4月公演)、『VOICARION XIV ～スプーンの盾～』(4月公演)、『My Story, My Song ～and YOU～』(5月公演)等を上演。
- 日生劇場では、『四月は君の嘘』(5月公演)が大入り。
- 東宝芸能(株)では、所属俳優がCM出演等で好調に推移。
- 演劇事業全体としては、新型コロナの影響で一部公演中止となった演目はあるものの、緊急事態宣言発出を受け公演中止が発生した前年同期に比べ事業環境が改善したことに加え、上記のような動員力のある公演を数多く実施することができたため、増収増益。

セグメント別業績【不動産事業】

営業収入



営業利益



※当期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用。対前年同期比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較。

(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

- 不動産賃貸事業では、保有する全国の賃貸物件は堅調に稼働したものの、一時的な改修工事等の実施による経費増加のため、増収減益。
- 道路事業では、公共投資が堅調に推移するなか、技術提案等を通じた積極的な営業活動により新規受注や既存工事の追加受注に努め、また、収益認識会計基準適用の影響もあり増収増益。
- 不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)・東宝ファシリティーズ(株)において、新規受注の獲得の取り組みや経費削減に努め、増収増益を確保

業績・配当予想

■ 2023年2月期連結業績予想（2022年3月1日～2023年2月28日）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円. 銭
2023 年2月期（予想）	232,000	38,000	41,000	28,500	161.41
(ご参考) 2022年2月期実績	228,367	39,948	42,790	29,568	167.24

※当期より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、連結業績予想は当該会計基準適用後の金額となっていることから、対前期増減率は記載しておりません。

※直近に公表されている業績予想からの修正はありません。

■ 配当予想

	第1四半期末 円 銭	第2四半期末 円 銭	第3四半期末 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭
2023年2月期(予想)	—	20.00	—	20.00	40.00
(ご参考) 2022年2月期実績	—	17.50	—	27.50 (特別配当10円含む)	45.00

※当期より、「中期経営計画 2025」で公表しましたとおり、株主還元の新たな数値目標として従来の基本的な水準であった年間配当金35円から年間配当金40円（上期20円 下期20円）へ、ベースを変更しております。

※直近に公表されている配当予想からの修正はありません。

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではございませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ
東宝株式会社 総務部 広報・IR室
TEL 03-3591-1303